

# 後期個人研修

総合技術部経費による後期個人研修リスト(申請順)

講習会等名称：2013 年度年次大会

期 間：2013 年 12 月 18 日～12 月 20 日

主 催：大学 ITC 推進協議会

場 所：幕張メッセ国際会議場（千葉市）

参 加 者：寺崎彰洋(理学研究科学術情報メディアセンター)

講習会等名称：第 2 回実験動物管理者研修会

期 間：2014 年 2 月 27 日～2 月 28 日

主 催：第 2 回実験動物学会

場 所：東京大学農学部 1 号館 8 番教室

参 加 者：荻原智幸(再生医科学研究所附属再生実験動物施設)

講習会等名称：第 1 回東京大学柏キャンパス技術発表会

期 間：2014 年 2 月 21 日

主 催：第 1 回東京大学柏キャンパス技術発表会実行委員会

場 所：東京大学柏 L キャンパス

参 加 者：有村恭平(人間・環境学研究科)

講習会等名称：第 5 回 Dr. ニエンミの超音波画像診断セミナー

期 間：2014 年 3 月 4 日

主 催：(株)フロンティアインターナショナル

場 所：大田区産業プラザ(東京都大田区蒲田)

参 加 者：吉岡秀貢、糸山恵里奈(農学研究科附属牧場)

## 講習会等参加報告書

2014年 1月 8日

講習会等名称	2013年度年次大会(大学ICT推進協議会)		
報告者氏名	寺崎 彰洋	所 属	理学研究科
期 間	2013年12月18日 ～ 2013年12月20日		
場 所	千葉県美浜区中瀬 2-1 幕張メッセ国際会議場		
<p>受講内容（詳細に（200字以上）。必要なら別紙を添付）</p> <p>大学ICT推進協議会(Academic eXchange for Information Environment and Strategy) (<a href="http://axies.jp/ja/">http://axies.jp/ja/</a>)の年次大会に参加させていただきました。大学ICT推進協議会は「高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与する」ことを目的とし、年次大会を情報交換の場として活用しているそうです。</p> <p>年次大会は複数のセッションなどが常に同時に行われている感じでどれに参加すればよいのか考えなければなりませんでした。</p> <p>Moocs (Massive Open Online Courses)の話や情報セキュリティの話、情報教育の話、京大の学習支援サービスでも使われている Sakai の話などなど非常に多くの話がありました。</p> <p>「Moodle 管理者ワークショップ」、「これからの大学での情報教育」、「ポスターセッション」、「認証ネットワーク内における Windows8 使用時のトラブル」などに参加させていただき興味深いお話を聞かせていただきました。</p>			

## 講習会等参加報告書

2014年3月14日

講習会等名称	第2回実験動物管理者研修会		
報告者氏名	荻原 智幸	所属	再生医科学研究所
期間	2014年2月27日～2014年2月28日		
場所	東京大学農学部（東京都文京区）		
<p>受講内容（詳細に（200字以上）。必要なら別紙を添付）</p> <p>私は、所属部局に附属する動物施設の技術職員として着任して以来、研究者でもある施設長の下、10名を超える施設員の業務を統括し、多数の実験動物（マウス）を飼養保管する施設を管理する「実験動物管理者」という立場で勤務しております。今回は、公益社団法人・日本実験動物学会が今年度からスタートさせた本研修において、業務に不可欠な最新の知見を学び、マネジメントスキルを磨きたいと考え、応募しました。応募段階では交通費も含め自弁で受講しようと考えておりましたので、この個人研修制度を利用させていただくことが決まった時は、本当に有り難いことであると感じました。</p> <p>研修会は、実験動物の適正管理、動物実験の適正化に必須の法令、「動物の愛護及び管理に関する法律」（2012年改正）、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（2013年改正）の各条文の確認から始まりました。特に、実験動物の管理と同様に、実験実施者、動物飼養者の双方へのアプローチの在り方については、実験動物管理者の役割と責任の大きさを改めて感じました。実験動物福祉の基本原則という講義では、動物福祉（倫理的な動物実験）への配慮が不可欠であるとお話の中で、WVA（世界獣医学協会）の5 Freedom や、改正動愛法に明文化された3Rの原則、実験計画書の作成・審査、人道的エンドポイント等について学びました。</p> <p>実験動物飼育施設的环境と動物への影響という講義では、各動物の生理・生態の理解の重要性、飼育室の適正な居住スペース、温湿度、換気、照明、騒音・振動抑制について学びました。</p> <p>施設・設備の衛生管理、労働安全衛生と危機管理という講義では、施設内で働く人間にとっても重要な施設の清掃・消毒、器材の洗浄・滅菌、廃棄物の在り方、有事の際の危機管理について学び、施設運営上の責任の重さを強く感じました。実験動物の動物施設への導入、輸送、輸出入、実験動物の飼育管理及び健康管理、人獣共通感染症とバイオセーフティ、各種実験動物の特性、麻酔、鎮痛、試料採取、術後管理、個体管理、感染症予防対策、実験動物行政等について産学官の10名の専門家の方々から多岐にわたる分野の最新の知見を学ぶことができました。1日半という日程ではありましたが、理論・実践両面において非常に有益な、内容の濃い貴重な研修となりました。</p> <p>結文となりますが、私の不在中の日常業務をカバーし、出張の機会を与えてくださった勤務先の上司・同僚の皆様へ、本研修制度を整備してくださった本学の総合技術部並びに総務部人事課をはじめ関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。今後、本研修で学んだことを業務の中へ還元し、法的、社会的にも適正な、より質の高い研究環境の構築へ向け、最善を尽くしていくことでこの御恩に報いてまいる所存です。この度は本当に有難うございました。</p>			

## 講習会等参加報告書

年 月 日

講習会等名称	第1回 東京大学 柏キャンパス技術発表会		
報告者氏名	有村 恭平	所 属	人間・環境学研究科
期 間	2014年 2月 21日 ~ 2014年 2月 21日		
場 所	東京大学物性研究所大講義室		
<p>受講内容（詳細に（200字以上）。必要なら別紙を添付）</p> <p>東京大学柏キャンパスに位置する、物性研究所、宇宙線研究所、大気海洋研究所の3研究所に所属する技術職員の主催で行われた技術発表会を聴講してきました。3研究所の技術職員が一堂に会し、専門分野に関する発表をしていただきました。</p> <p>主に、東京大学内部の技術職員向けの技術発表会だったのですが、専門が違う技術職員同士の発表のため、京大から来た私のような外部の人間でも理解しやすく聴講できました。</p> <p>研究所所属技術職員の発表のため、高度な技術を含んだ専門的内容であり、大変に興味深く聴講いたしました。とりわけ、高エネルギー加速器研究機構のビームラインの周辺機器開発を行っていた技術職員の方の発表は、全学科目「物理学実験」に新たに放射線系実験を導入しようとしているので、「物理学実験」担当の技術職員である私には、直近の業務に役立つ大変有意義な発表を聴講させていただくことができました。</p>			

## 講習会等参加報告書

H26年 3月 5日

講習会等名称	Dr.ニエンミの超音波画像診断セミナー		
報告者氏名	吉岡 秀貢	所属	農学研究科附属牧場
期 間	H26年 3月 4日 ～ H26年 3月 4日		
場 所	大田区産業プラザ		
<p>受講内容（詳細に（200字以上）。必要なら別紙を添付）</p> <p>3/4、東京で開催された超音波診断セミナーに参加した。</p> <p>Dr.ニエンミはイタリアの開業獣医で、畜産領域における超音波診断で世界トップレベルの技術と知識を併せ持ち、世界中で講演を行うとともに後進の指導に尽力している。超音波診断技術の普及に関して、日本の畜産への貢献は計り知れないほどだと言われている。</p> <p>講義では超音波画像をスクリーンに映し出しながら、卵巢所見の鑑別法と注意するポイント、ウシのホルモン動態を把握した上で卵巢の中で何が起こっているのかを細かく丁寧に説明していただいた。繁殖プログラムには様々なプロトコルが存在するが、Dr.ニエンミによるとプログラムを開始するタイミングの見極めが大切で、その決定に必要な事として、発情休止期における主席卵胞（DF）の存在とそのサイズ、そして卵胞波（FW）のステージ等が非常に重要となり、決して黄体（CL）のサイズとプログラム開始後経過時間ではないと説いておられた。また、現場で誤認されている事象・知識や、不適切な対処法などの説明などがあり、現場サイドからの視点で講義が進んでいった。高泌乳牛に胚死減や発情時間が短い個体が多いのは、効果カロリー飼料を採食することが肝臓におけるステロイド代謝に影響を与えているためだという話は、いままでの自分の経験にも当てはまる内容であり、とても参考になった。また、ウシの繁殖生理学的に基づいた診断プログラムを紹介していただいた。年間3万例の経験則に基づく内容は新鮮で驚くような内容もあり、うなずきの連続であった。後半は超音波診断装置を用いた繁殖障害の診断と鑑別についてレクチャーがあった。</p> <p>スライド枚数は100を超え、動画を交えながら一つ一つを丁寧に説明するため、休憩は昼の30分のみというハードなセミナーであったが、終わった後は疲れよりも充実感を覚えた。また終了後は短い時間ではあるがDr.ニエンミと交流することが出来、非常に有意義な一日であった。最後に技術部経費にて研究会への参加を承認していただき、心より感謝いたします。ありがとうございました。</p>			

## 講習会等参加報告書

H26年3月5日

講習会等名称	第5回Dr. ニエンミの超音波画像診断セミナー ベーシックコース		
報告者氏名	糸山 恵理奈	所属	農学研究科附属牧場
期間	H26年3月4日		
場所	大田区産業プラザ		
<p>受講内容（詳細に（200字以上）。必要なら別紙を添付）</p> <p>3/4「第5回 Dr. ニエンミの超音波画像診断セミナー ベーシックコース」に参加した。本セミナーは、株式会社フロンティアインターナショナルが主催する超音波画像診断セミナーである。また、はるばるイタリアから牛の開業医であるジョヴィアンニ・ニエンミ博士を講師として招いてのセミナーであった。Dr. ニエンミは、株式会社BOVINEVETを営んでおり、1993年より超音波画像診断を行い牛群管理に取り入れている。繁殖管理、予防医学、酪農労働者・獣医の継続育成に関心分野としており、大牛群管理者のコンサルタント・世界中で160以上のトレーニングコースのインストラクターとして、国際的実績発展させている。今回は、牛の繁殖全体と超音波画像を結びつけながらご講義いただいた。</p> <p>セミナーは超音波検査を用いた牛の繁殖、牛の超音波繁殖診断、妊娠初期の3つの項目で構成されていた。実際に現場で収集した超音波画像を用いて説明があったためイメージしながら話を聴けた。どの講義内容も興味深く有意義な時間であった。特に、高乳量の乳牛でみられる早期胚死滅や発情の持続しない牛はエストロジェンやプロジェステロンのレベルが減少していることが原因とされ、多量の牛乳のための飼料摂取によって内臓血流が増加しステロイドホルモンの代謝に関連していることを聴き今までの疑問が解けていくようでとても驚きました。また黄体に関してもこれまで未知であった種類について、サイズ・容積によって機能性に違いがあること、のう腫様黄体も黄体であることなどとても勉強になった。そして、2つの卵胞ウェーブの際におけるPGによる排卵同期については、これからの現場の繁殖における処置にも活かせると思った。その他にも早期妊娠鑑定について、発情時の子宮の状態、胎子の雄雌判別など1日のセミナーで多くの経験と知識を教えていただいた。宮崎大学の澤先生は、多くの専門用語の通訳を行っていただきより分かりやすくセミナーを受講できた。今回受講した内容について牧場の繁殖にも取り入れ超音波画像技術を向上させたいと考えている。</p> <p>最後になりましたが、総合技術部経費での参加を承認していただき大変感謝するとともに多忙な業務の中セミナーへの参加を了承いただいた附属牧場職員の皆さんに厚く御礼申し上げます。</p>			